

# 事業概要

令和4年度版  
(2022年度版)



## 名古屋市北部地域療育センター

〒451-0083 名古屋市西区新福寺町2丁目6番地の5

電話 052(522)5277

FAX 052(522)5279

# 北部地域療育センターの基本理念

すべてのこどもたちが、人としての尊厳が守られ、豊かで生き生きとした人生を過ごすことができるよう支援することが、私たちの責務です。

私たちの規範を次のとおり定め、みなさんとともに歩んでいくことを誓います。

## 1 生命の尊厳

一人一人の生命と人生をかけがえのないものとして大切にします。

## 2 個人の尊厳

一人の人としての個性、主体性、可能性を大切にします。

## 3 人権の擁護

いかなる差別、虐待、人権の侵害も許さず、人としての権利を擁護します。

## 4 社会への参加

すべてのこどもたちが、社会の中で生き生きとした生活が送れるよう支援します。

平成15年8月20日

北部地域療育センター運営会議決定

# 目 次

令和4年度事業概要のあらまし	1
<b>第1 施設の概要</b>	
1 施設の目的	2
2 施設の構成	2
3 設置年月日	2
4 建物の概要	2
5 事業の概要	3
<b>第2 発達相談事業</b>	
1 相談	6
2 心理検査及び心理面接	10
3 療育グループ	11
<b>第3 医療事業</b>	
1 診療	14
2 理学療法	19
3 作業療法	20
4 言語聴覚療法	21
<b>第4 通園事業</b>	
1 事業概要	23
2 療育目標	23
3 日課	24
4 児童状況	25
5 見守り一時支援	26
6 行事	27
7 アフターケアグループ	27
<b>第5 地域ケア事業</b>	
1 関係機関との連絡調整	28
2 巡回療育	29
3 訪問療育	30
4 地域啓発・地域交流	32
5 通園部の卒・退園児のアフターケア	34
6 北部地域療育センターのホームページの開設	34
7 北部地域療育センターだよりの発行	34
8 就学移行支援事業	35
<b>第6 相談支援事業</b>	36
北部地域療育センター利用者の10年間の推移(平成25年度～令和4年度)	37

【注】 各表中の「%」欄の数値は、小数点以下第2位を四捨五入して表記している。このため「%」欄の合計値が100.0とまらない場合があるが、この事業概要では「%」の合計値は一律にすべて100.0と表記している。

# 令和4年度 事業概要のあらまし

## 1 発達相談事業

令和4年度の新規相談は、前年度比17件増の484件であった。これらの相談を主訴（保護者が訴える主な症状等）別にみると、「言語発達」が44.0%、「性格行動」が35.7%で、合わせて8割を占めている。

センターへの紹介機関は保健センターが全体の37.4%、保育所・幼稚園・認定こども園から合わせて29.5%、医療機関から10.3%であった。

区ごとの相談件数は、西区が198件(40.9%)、北区が191件(39.5%)、東区が94件(19.4%)であった。

年齢ごとの人数は、0～1歳が43名、2歳が149名、3歳が127名、4歳が73名、5歳が57名であり、2歳と3歳での相談が全体の57.0%を占めている。

心理検査の実施件数は、新規・継続合わせて775件（延べ件数）であり、検査数値が愛護手帳非該当相当(76以上)が374件(48.3%)、軽度相当(51～75)が286件(36.9%)であった。

療育グループの在籍児童数は、就園前グループが77人、並行グループが33人であり、就園前グループ在籍児童の進路は、保育所・幼稚園等入園が29人、通園施設入園が21人、グループ継続が26人であった。

## 2 医療事業

小児科は新規受診が484人、再来受診が2,514件であった。再来受診に占める小学生以上の就学児の割合は48.5%（1,220件）となっている。

整形外科は新規受診が31人、再来受診が355件であった。

精神科は新規受診が8人、再来受診が55件、耳鼻いんこう科は新規受診が25人、再来受診が51件であった。

機能訓練の実施件数（延べ数）は、理学療法が1,258件、作業療法が751件、言語聴覚療法が398件であった。

## 3 通園事業

定員40人に対し、年度当初は45人が在籍、年度途中の入・退園があり、年度末には45人の在籍であった。知的障害と自閉症を合併する児童が23人、重症心身障害児5人、知的障害と肢体不自由を合併する児童が6人と配慮が必要な児童の割合が高い。

卒・退園後の進路は、特別支援学校への就学が9人、特別支援学級への就学が3人、保育所・幼稚園への就園等が13人、令和5年度も通園を継続する児童が22人であった。

## 4 地域ケア事業

卒・退園児のアフターケアを19施設に実施。巡回療育は26件、訪問療育は0件であった。

保健センターが実施する乳幼児発達相談やいこいの家に職員派遣を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣中止となることもあった。センターの夏まつりは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。療育講演会は、「これまで、いま、これから」～療育のおもいをつなぐ～をテーマに、移管先法人職員も参加して実施した。

## 5 相談支援事業

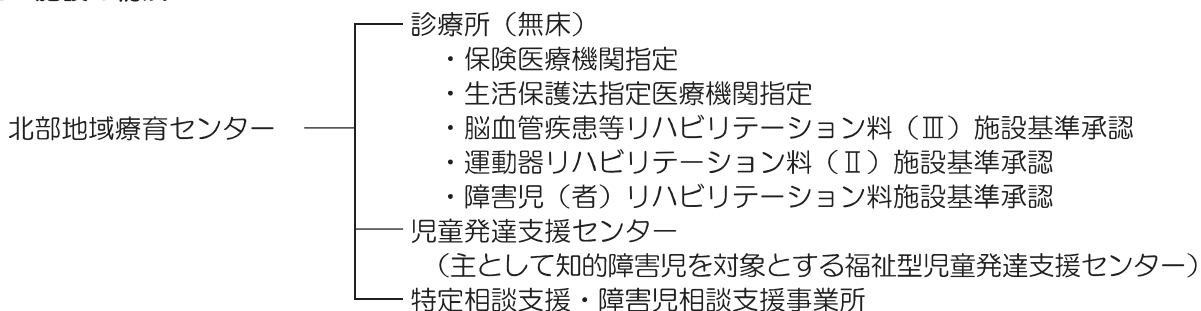
契約人数は216名、障害児支援利用計画案の作成件数は、本計画とモニタリングを合わせて243件であった。

# 第1 施設の概要

## 1 施設の目的

障害のある児童及びその疑いのある児童又はその保護者に対し、相談、検査、医療の提供及び療育訓練を行うことにより、障害の早期発見及びその軽減を図ることを目的とする。

## 2 施設の構成



## 3 設置年月日

平成15年 4月 1日

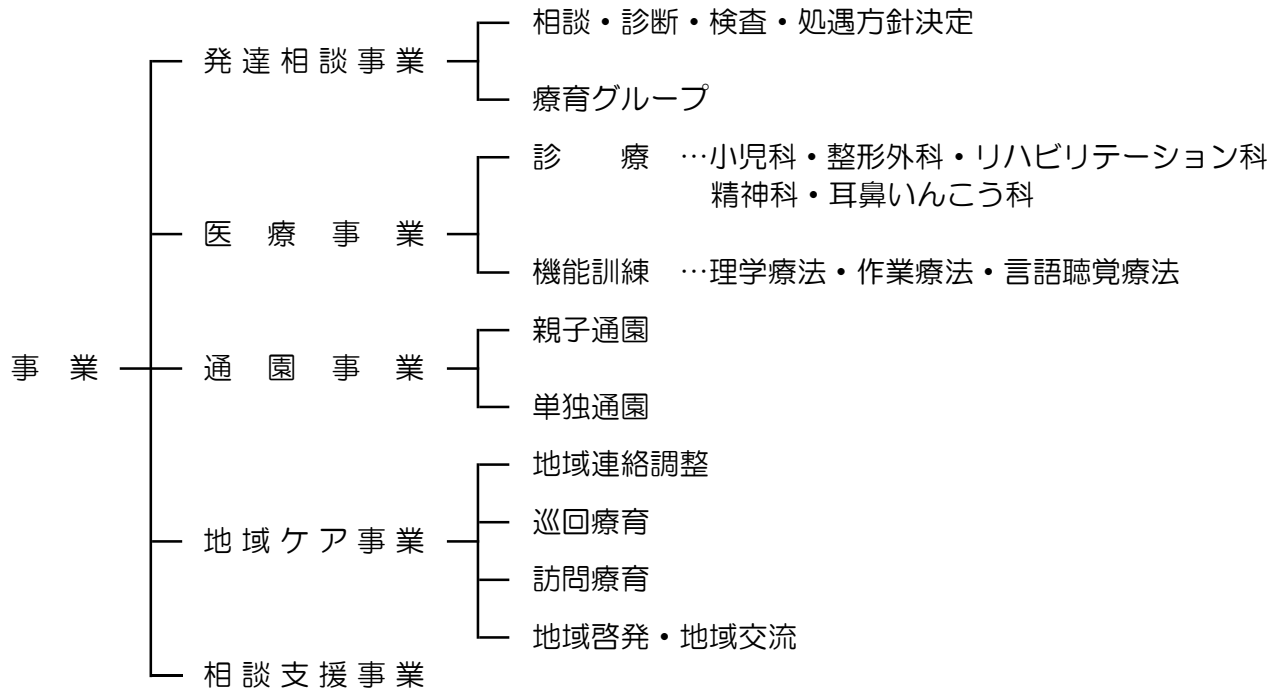
## 4 建物の概要

敷地面積 3,299㎡  
 構造 鉄筋コンクリート造り2階建て（エレベーター設置）  
 規模 建築面積 1,043.79㎡  
 延べ床面積 1,749.91㎡



## 5 事業の概要

### (1) 事業の種類



### (2) 担当地域

東区、北区、西区

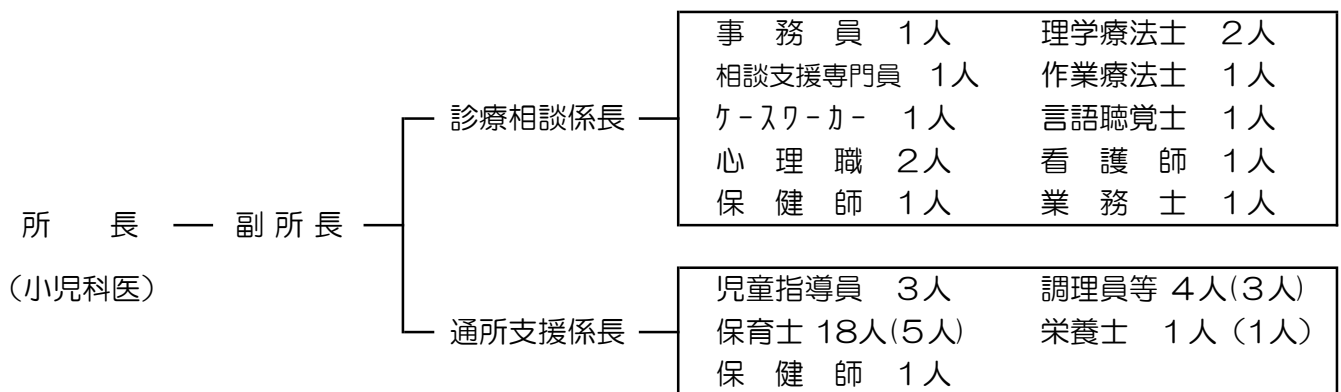
#### 担当区域の人口・面積等（令和4年4月1日現在）

	東区	北区	西区	計
全人口（人）	81,580	161,893	146,725	390,198
就学前児童人口（人） （0～5歳児の人口）	4,189	6,738	6,554	17,481
就学前人口の割合	5.1%	4.2%	4.5%	4.5%
面積（km <sup>2</sup> ）	7.71	17.53	17.93	43.17

※全人口・就学前児童人口・面積の各数値は「統計なごやweb版」より引用した。

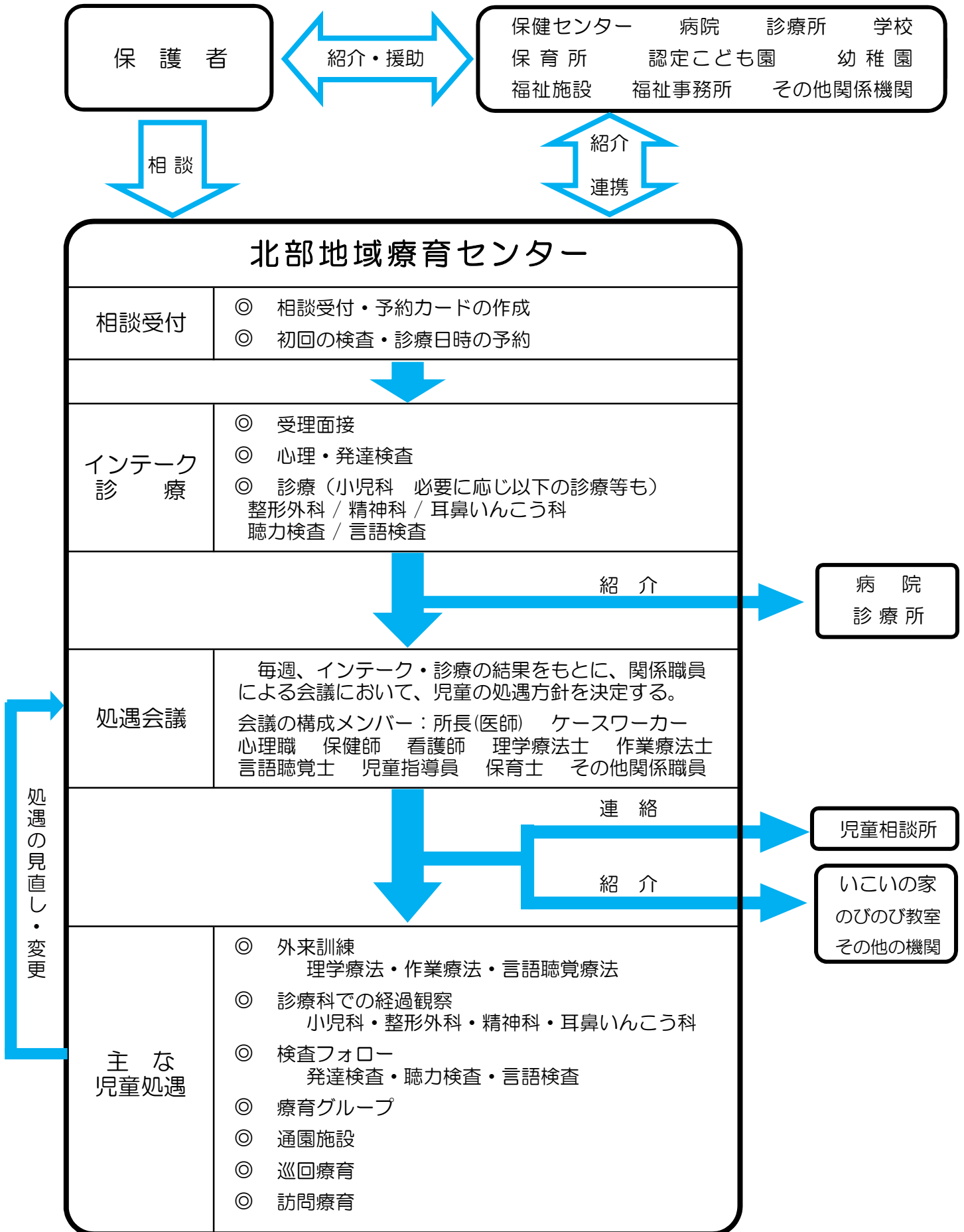


(3) 組織・職員体制〔( )内、会計年度任用職員再掲〕(令和4年4月1日現在)



#### (4) 発達相談の流れ

以下は、保護者より相談を受けてからのおおまかな流れをチャート図に示したものである。





## 第2 発達相談事業

### 1 相談

#### (1) 新規相談

電話等で相談の予約を受け付け、あらかじめ来所日時を調整し、受理面接、心理面接、発達検査、知能検査、その他の心理検査ならびに診察を行い、後日、関係者による会議を開催して処遇方針を決定している。

表2-1 区別の新規相談受付状況 (単位：人)

区	就 学 前 児 童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
東 区	1	8	27	26	16	13	3					94	19.4
北 区	1	14	63	54	26	17	15	1				191	39.5
西 区	4	15	58	47	31	27	16					198	40.9
その他の区												0	0.0
市 外			1									1	0.2
計	6	37	149	127	73	57	34	1	0	0	0	484	100.0

(注) 就学前児童の年齢は、相談時点の満年齢による。(以下、表2-8まで同じ。)

表2-2 他の療育センターでの相談歴の有無 (単位：人)

療育センター別	就 学 前 児 童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
中央療育センター												0	0.0
西部地域療育センター			1	1	1	1						4	0.8
南部地域療育センター												0	0.0
東部地域療育センター			1	1	1	1						4	0.8
相談歴なし	6	37	147	125	71	55	34	1				476	98.3
計	6	37	149	127	73	57	34	1	0	0	0	484	100.0

表2-3 主訴（症状）別状況

(単位：人)

主 訴	就 学 前 児 童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
言 語 発 達		17	96	60	23	8	8	1				213	44.0
精 神 発 達			1	2	2	7	7					19	3.9
運 動 発 達	5	14	1	1	2							23	4.8
全 体 発 達	1	3	12	10	13	10	6					55	11.4
聴 覚												0	0.0
性 格 行 動		3	39	54	33	31	13					173	35.7
そ の 他						1						1	0.2
計	6	37	149	127	73	57	34	1	0	0	0	484	100.0

(注) 主たる主訴で分類した。

表2-4 紹介機関（経路）別状況

(単位：人)

紹 介 機 関	就 学 前 児 童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
保健センター	1	16	71	63	14	11	5					181	37.4
医療機関	5	10	17	6	8	4						50	10.3
療 育 セ ン タ ー	中 央											0	0.0
	西 部			1	1	1						3	0.6
	南 部											0	0.0
	東 部			1	1		1					3	0.6
児童相談所					3							3	0.6
社会福祉事務所		1	2	3	1	1	2					10	2.1
児童福祉施設					1		1					2	0.4
いこいの家			1									1	0.2
保 育 所		1	26	23	16	13	7	1				87	18.0
幼 稚 園			2	7	1	6	4					20	4.1
認定こども園		2	3	6	14	6	5					36	7.4
学 校		1				1	1					3	0.6
近隣・知人				1		2	1					4	0.8
そ の 他		4	16	7	11	9	4					51	10.5
なし(家族・親戚)		2	9	9	3	3	4					30	6.2
計	6	37	149	127	73	57	34	1	0	0	0	484	100.0

(注) 当センターへの来所にあたり、紹介を受けた機関等の状況である。

表2-5 障害種別状況

(単位：人)

障害種別	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
知的障害	1	2	1	2	5		2					13	2.7
自閉症+知的障害			15	3	1	1	2					22	4.5
自閉症		8	59	72	37	26	17					219	45.2
肢体不自由												0	0.0
肢体不自由+知的障害					1							1	0.2
言語発達障害等		12	72	47	26	23	12	1				193	39.9
聴覚障害		1										1	0.2
適性		2	2	2	2	7	1					16	3.3
保健	5	9		1								15	3.1
自閉症+聴覚障害		1										1	0.2
重症心身障害		2			1							3	0.6
性格行動												0	0.0
計	6	37	149	127	73	57	34	1	0	0	0	484	100.0

表2-6 処遇方針決定状況

(単位：件)

処遇方針	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
経過フォロー	6	31	125	114	68	52	26	1				423	61.8
理学療法	6	13	2									21	3.1
作業療法			2		6	16	5					29	4.2
言語聴覚療法				6	11	8	7	1				33	4.8
おひさま教室	3	10	23	6	1							43	6.3
あおぞら教室				8	7	6						21	3.1
通園施設			7	4	1		1					13	1.9
いこいの家紹介		4	8									12	1.8
巡回療育指導				5	3	2						10	1.5
訪問療育指導												0	0.0
他機関紹介			13	1			1					15	2.2
特にフォローなし		5	24	12	3	8	8					60	8.8
その他			3	1								4	0.6
計	15	63	207	157	100	92	48	2	0	0	0	684	100.0

(注) 1. 1人の児童につき、複数の処遇方針が決定した場合は重複して計上しており、表2-1から表2-5までの合計とは一致しない。

2. 「経過フォロー」は、継続して検査・診察・支援等を行うものである。

## (2) 初診前相談

令和3年9月より、希望者に対して初診前相談を実施している。

表2-7 区別の初診前相談実施状況

(単位：人)

区	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
東区		1	1	1								3	21.4
北区			3		1							4	28.6
西区		1	3	3								7	50.0
計	0	2	7	4	1	0	0	0	0	0	0	14	100.0

## (3) 継続相談

令和4年度以前から継続して相談のある児童について、処遇方針の追加や変更を行った件数は以下のとおりである。

表2-8 処遇方針の追加・変更状況

(単位：件)

処遇方針	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
経過フォロー			6	3	5	8	1	1	1		1	26	13.1
理学療法			1	1		1						3	1.5
作業療法		2	3	2	10	40	11	1				69	34.8
言語聴覚療法		3		3	14	6	2	3				31	15.7
おひさま教室		5	9	4								18	9.1
あおぞら教室				8	10	3						21	10.6
通園施設			3	8								11	5.6
巡回療育指導			1	4	7	4						16	8.1
訪問療育指導												0	0.0
他機関紹介												0	0.0
特にフォローなし					1							1	0.5
その他		1						1				2	1.0
計	0	11	23	33	47	62	14	6	1	0	1	198	100.0

(注) 1人の児童につき複数の処遇方針を決定した場合は重複して計上している。

## 2 心理検査及び心理面接

初診及びそのフォローとして、心理面接、発達検査、知能検査、その他の心理検査を行っている。

### (1) 新規相談児童の心理検査及び心理面接

表2-9 新規相談児童の心理検査・心理面接実施状況

(単位：件)

区	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
東区		7	27	26	12	12	2					86	19.8
北区		9	60	53	24	14	12					172	39.5
西区		12	58	44	26	22	14					176	40.5
その他の区												0	0.0
市外			1									1	0.2
計	0	28	146	123	62	48	28	0	0	0	0	435	100.0

(注) 就学前児童の年齢は、相談時点の満年齢による。

### (2) 継続相談児童の心理検査及び心理面接

表2-10 継続相談児童の心理検査・心理面接実施状況

(単位：件)

区	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
東区			7	12	11	18	5					53	16.3
北区			8	16	42	50	19	1				136	41.8
西区		7	15	14	41	39	17					133	40.9
その他の区					1	2						3	0.9
市外												0	0.0
計	0	7	30	42	95	109	41	1	0	0	0	325	100.0

(注) 1. 就学前児童の年齢は、検査等を行った時点の満年齢による。  
2. 令和4年度に初診を受けた児童に対する再検査は含まない。

### (3) 検査結果（新規相談児童及び継続相談児童）

表2-11 新規及び継続相談児童の年齢別検査結果

(単位：件)

区分		就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
愛護手帳	検査数値	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
1度	20以下			3	1	3	1	3					11	1.4
2度	21~35		1	4	3	5	6	5					24	3.1
3度	36~50		1	18	22	23	12	3	1				80	10.3
4度	51~75		16	84	61	54	54	17					286	36.9
非該当	76以上		17	71	83	76	86	41					374	48.3
計		0	35	180	170	161	159	69	1	0	0	0	775	100.0

(注) 検査数値は、発達検査、知能検査、その他心理検査の発達指数、知能指数等である。

### 3 療育グループ

障害や発達の遅れがある、又はその疑いがある児童を対象に実施している。療育グループには、通園施設や保育所又は幼稚園等へ通っていない児童を対象とした就園前グループ（おひさま教室）と、保育所又は幼稚園等へ通っている児童を対象にした並行グループ（あおぞら教室）の2種類がある。

#### (1) 就園前グループ（おひさま教室）

表2-12 就園前グループの実施状況

グループ名	開催日	対象児童	担当職員
きいろ	毎週月曜日	1歳児中心で言葉遅れのある児童	保育士3人・心理職2人
もも	隔週火曜日	0歳児中心	保育士・保健師・理学療法士・言語聴覚士
あお	毎週火曜日	未歩行で運動発達がゆっくりな児童	保育士2人・心理職・作業療法士・看護師
にじ	隔週火曜日	2歳児中心で言葉遅れのある児童	保育士3人・心理職・作業療法士
しろ	毎週水曜日	2歳児中心で言葉遅れのある児童	保育士3人・心理職2人
みどり	毎週木曜日	2歳児中心で言葉遅れのある児童	保育士3人・心理職2人
あか	毎週金曜日	発達全体の変化がゆっくりな児童	保育士3人・心理職・保健師・理学療法士
ほし	隔週金曜日	2歳児中心で言葉遅れのある児童	保育士・CWまたは診療相談係長

※ほしグループは前期のみ、にじグループは後期のみ実施。

※令和4年度は民間移管に伴う共同療育のため、上記に加えて引継職員が入る。

表2-13 就園前グループ別の児童数

(単位：人)

グループ名	0歳児 令和4年4月 1日以降に出生	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	%
きいろ			10	2				12	15.6
もも		5	2					7	9.1
あお		2	6	3	1			12	15.6
にじ				7	1			8	10.4
しろ				21	2			23	29.9
みどり				10				10	13.0
あか			3	1	1			5	6.5
計	0	7	21	44	5	0	0	77	100.0

(注) 1. 0歳児については、令和4年4月1日以降に生まれた児童とそれ以前に生まれた学齢0歳児とを分け、それ以外の年齢は学齢で区分してある。(以下、表2-14、表2-15について同じ。)

2. 年度の途中で転居や辞退によりグループを終了した児童を含む。

3. ほしグループは後期に他グループへ移動しているため、異動後のクラスで人数を計上。

表2-14 就園前グループの区別児童数

(単位：人)

区	0歳児 令和4年4月 1日以降に出生	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	%
東区		3	10	15	2			30	39.0
北区		2	6	13	1			22	28.6
西区		2	5	14	2			23	29.9
その他の区				2				2	2.6
計	0	7	21	44	5	0	0	77	100.0

表2-15 就園前グループ児童の障害種別状況

(単位：人)

障害種別	0歳児 令和4年4 月1日以 降に出生	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	%
知的障害		4	6	4				14	18.2
知的障害+肢体不自由			2		1			3	3.9
知的障害+聴覚障害			1					1	1.3
自閉症			6	17	3			26	33.8
自閉症+知的障害			3	16				19	24.7
肢体不自由								0	0.0
肢体不自由+知的障害								0	0.0
重症心身障害		1	1	1	1			4	5.2
言語発達障害等				5				5	6.5
保健		2	2	1				5	6.5
計	0	7	21	44	5	0	0	77	100.0

表2-16 就園前グループの月別児童数(累計)

(単位：人)

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
児童数	41	45	49	50	53	54	61	61	65	65	65	65	674
開始	41	4	4	2	3	2	14	1	5	1	0	0	77
終了	0	0	0	1	0	1	7	1	1	1	0	0	12

表2-17 就園前グループ児童の終了状況(進路)

(単位：人)

保育所・幼稚園 認定こども園 入園	通園施設入園	その他(転居等)	グループ継続	計
29	21	1	26	77

## (2) 並行グループ(あおぞら教室)

表2-18 並行グループの実施状況

グループ名	開催日	対象児童	担当職員
オレンジ	毎週月曜日	3歳児	保育士3人・心理職2人
グリーン	第2・4火曜日	4歳児	保育士3人・心理職・言語聴覚士
ピンク	毎週木曜日	5歳児	保育士3人・心理職2人

(注) ピンクグループは後期から隔週で実施。

表2-19 並行グループ別の児童数

(単位：人)

グループ名	3歳児	4歳児	5歳児	計	%
オレンジ	19			19	57.6
グリーン		9		9	27.3
ブルー			5	5	15.2
計	19	9	5	33	100.0

(注) 年齢は、学齢区分による。(以下、表2-20・表2-21とも同じ。)

表2-20 並行グループの区別児童数 (単位：人)

区	3歳児	4歳児	5歳児	計	%
東区	9	4	2	15	45.5
北区	7	3	1	11	33.3
西区	3	2	2	7	21.2
その他の区				0	0.0
計	19	9	5	33	100.0

表2-21 並行グループ児童の障害種別状況 (単位：人)

障害種別	3歳児	4歳児	5歳児	計	%
知的障害	2			2	6.1
自閉症 + 知的障害	4	2		6	18.2
自閉症	12	7	5	24	72.7
言語発達障害	1			1	3.0
保健				0	0.0
計	19	9	5	33	100.0

表2-22 並行グループの月別児童数 (累計) (単位：人)

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
児童数	7	13	28	30	32	31	29	28	28	28	28	28	310
開始	7	6	15	2	3	0	0	0	0	0	0	0	33
終了	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0	5

表2-23 並行グループ児童の終了状況 (進路) (単位：人)

就学	経過良好	通園施設入園	その他 (転居等)	計
4	22	2	5	33

### (3) アフターケアグループの実施状況

療育グループを終了し、保育所・認定こども園・幼稚園等に入所(園)した児童の保護者を対象として、グループを作って、保育所や幼稚園等、又は家庭での生活についてや就学に向けての悩み、不安及び疑問などに対して、保育士、ケースワーカーが助言・援助を行っている。

10月からは保護者を主体とした自主グループに移行し、職員は側面から支援を行っている。

表2-24 アフターケアグループの実施状況

グループ名	開催状況	参加者数	担当職員
しろ・きいろ	月1回(金曜日) 10:00~11:30	9	保育士・ケースワーカー
オレンジ	月1回(金曜日) 10:00~11:30	6	保育士・ケースワーカー
グリーン	月1回(火曜日) 10:00~11:30	4	保育士・ケースワーカー



### 第3 医療事業

#### 1 診療

小児科（常勤1名、非常勤1名/月2回）、整形外科・リハビリテーション科（非常勤4名/週1回2名、月2回1名、月1回1名）、精神科（非常勤1名/月3回）及び耳鼻いんこう科（非常勤1名/月2回）による診察を行っている。

表3-1 新規相談児童の小児科診断区分別状況

（単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
ダウン症候群	1	1		1								3	0.6
その他症候群		1			1							2	0.4
てんかん												0	0.0
知的障害		2	1	3	5		2					13	2.7
自閉症及び自閉症周辺		9	75	75	38	27	19					243	50.2
多動症候群		2	14	18	13	10	5					62	12.8
言語発達遅滞		10	56	19	4	6						95	19.6
構音障害				7	5	5	5	1				23	4.8
吃音				1	2	1	1					5	1.0
難聴		1										1	0.2
脳性麻痺												0	0.0
運動発達遅滞	5	7										12	2.5
筋ジストロフィー		1		1								2	0.4
急性脳症後遺症			1									1	0.2
脳炎後遺症					1							1	0.2
整形外科疾患												0	0.0
境界域							1	2				3	0.6
正常域		2	2	2	2	7						15	3.1
その他		1			2							3	0.6
計	6	37	149	127	73	57	34	1	0	0	0	484	100.0

- （注） 1. 就学前児童の年齢は、受診した時の満年齢による。  
 2. 初めて小児科を受診した実人員数による。  
 3. 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

発達障害の診断は、その時々での判断ではなく発達経過を重視し診断する。確定診断が難しいケースは、状態像である言語発達遅滞あるいは運動発達遅滞として暫定的に区分している。

自閉症スペクトラムに、知的障害あるいはADHD等の他の発達障害が併存するケースについては「自閉症及び自閉症周辺」に区分している。

表3-2 再来児童の小児科診断区分別状況

(単位：件)

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
ダウン症候群		10	5	3	4	8	5	3	2	1		41	1.6
その他症候群		2	3	2	3	3	1		1			15	0.6
てんかん						1	3					4	0.2
知的障害		5	16	12	17	21	20	42	10	9	23	175	7.0
自閉症及び自閉症周辺		2	77	142	234	259	131	308	169	168	45	1,535	61.1
多動症候群			5	22	23	50	17	130	84	48	27	406	16.1
言語発達遅滞		3	20	29	31	29	15	29	18	11	2	187	7.4
構音障害					3	4	1	7				15	0.6
吃音						4	2	3	1	4		14	0.6
難聴		2	2									4	0.2
脳性麻痺		1	1	1	5	1		1	1			11	0.4
運動発達遅滞	1	5	4	1			1	1				13	0.5
その他神経疾患				1				1				2	0.1
筋ジストロフィー												0	0.0
水頭症												0	0.0
整形外科疾患												0	0.0
急性脳症後遺症					4							4	0.2
脳炎後遺症		1	2									3	0.1
境界域						1		23	1	4	1	30	1.2
正常域						2	1	13	22	2		40	1.6
その他				4	2	3	1	4			1	15	0.6
計	1	31	135	217	326	386	198	565	309	247	99	2,514	100.0

- (注) 1. 就学前児童の年齢は、受診した時の満年齢による。  
2. 初診を除き、小児科を受診した者の延べ人数による。  
3. 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

表3-3 整形外科・リハビリテーション科の診断区分別状況（新規）

（単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
疾病に伴う運動発達障害		1			1							2	6.5
運動発達遅滞	5	10	6									21	67.7
ダウン症候群	1	1		1								3	9.7
脳性麻痺												0	0.0
骨・関節疾患		1			1							2	6.5
中枢性協調運動障害		1	1		1							3	9.7
その他												0	0.0
計	6	14	7	1	3	0	0	0	0	0	0	31	100.0

- （注） 1. 就学前児童の年齢は、受診した時の満年齢による。  
 2. 初めて整形外科・リハビリテーション科を受診した実人員数による。  
 3. 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

表3-4 整形外科・リハビリテーション科の診断区分別状況（再来）

（単位：件）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
脳性麻痺				2	7				12			21	5.9
疾病による運動障害		4	21	6		5		30	2		6	74	20.8
運動発達遅滞	1	16	45	12	7	21	4	3	4			113	31.8
ダウン症候群	1	23	12	11	2	9	4	3				65	18.3
疾病に伴う運動発達遅滞	1	5	4	6	10	5	3	1	4	2	1	42	11.8
後天性要因による運動障害			3	8	10	2		2				25	7.0
骨・関節疾患						2						2	0.6
その他			2	3	5			1		2		13	3.7
計	3	48	87	48	41	44	11	40	22	4	7	355	100.0

- （注） 1. 就学前児童の年齢は、受診した時の満年齢による。  
 2. 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

表3-5 精神科の診断区分別状況（新規）

（単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
自閉症					1	3						4	50.0
不安障害												0	0.0
神経症												0	0.0
適応障害												0	0.0
うつ病												0	0.0
抑うつ状態												0	0.0
その他					1	3						4	50.0
計	0	0	0	0	2	6	0	0	0	0	0	8	100.0

- （注） 1. 就学前児童の年齢は、受診した時の満年齢による。  
 2. 初めて精神科を受診した実人員数による。  
 3. 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

表3-6 精神科の診断区分別状況（再来）

（単位：件）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
自閉症				8		1		18	16	2	10	55	100.0
不安障害												0	0.0
神経症												0	0.0
適応障害												0	0.0
うつ病												0	0.0
抑うつ状態												0	0.0
その他												0	0.0
計	0	0	0	8	0	1	0	18	16	2	10	55	100.0

- （注） 1. 就学前児童の年齢区分は、受診した時の満年齢による。  
 2. 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

表3-7 耳鼻いんこう科の診断区分別状況（新規）

（単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
難聴（疑いを含む）			3	3	5	5	2	1				19	76.0
滲出性中耳炎												0	0.0
耳垢栓塞			1	1	2					1		5	20.0
鼻疾患												0	0.0
その他					1							1	4.0
計	0	0	4	4	8	5	2	1	0	1	0	25	100.0

- （注） 1. 就学前児童の年齢は受診時の満年齢による。  
 2. 初めて耳鼻いんこう科を受診した実人員数による。  
 3. 診断が複数の区分に該当する場合には、主たる診断で集計している。

表3-8 耳鼻いんこう科の診断区分別状況（再来）

（単位：件）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
難聴（疑いを含む）					3	2		4				9	17.6
滲出性中耳炎												0	0.0
耳垢栓塞					5	6	6	4	6	6	4	37	72.5
鼻疾患							2					2	3.9
その他						1	1	1				3	5.9
計	0	0	0	0	8	9	9	9	6	6	4	51	100.0

- （注） 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

表3-9 診断書等の発行状況

（単位：件）

診断書などの種別	診療科			
	小児科	整形外科	計	%
特別児童扶養手当診断書	62	1	63	10.7
障害児福祉手当診断書	2	0	2	0.3
身体障害者手帳診断書	0	8	8	1.4
補装具交付(修理)意見書・証明書 基準外補装具交付意見書	0	64	64	10.9
障害証明書	0	0	0	0.0
その他の診断書・証明書	448	4	452	76.7
計	512	77	589	100.0

- （注）「その他の診断書・証明書」の内容は、保育所への入所に係る診断書、私立幼稚園特別支援教育費補助金事業に係る診断書、児童発達支援利用手続きに係る診断書、手当の現況届、紙おむつ等申請意見書などである。

表3-10 検査等の実施件数（単位：件）

検査の種類	件数
脳波検査	0
脳幹反応聴力検査（ABR）	0
エックス線写真撮影	24

## 2 理学療法

表3-11 診断区分別状況（理学療法）

（単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
脳性麻痺		2	1	3	2			3	2			13	15.7
疾病による運動障害		1	2	1	1	3	1	1	2			12	14.5
後天性要因による運動障害			2		1	1	1	4			1	10	12.0
中枢性協調運動障害												0	0.0
運動発達遅滞	5	11	11									27	32.5
ダウン症候群	3	2	2	4								11	13.3
疾病に伴う運動発達遅滞		1	3	1								5	6.0
神経・筋疾患			1	2								3	3.6
骨・関節疾患												0	0.0
その他			1			1						2	2.4
計	8	17	23	11	4	5	2	8	4	0	1	83	100.0

（注）就学前児童の年齢は、新規に訓練を開始した児童は訓練開始時の満年齢、前年度からの継続児童は年度当初の満年齢で区分した。

表3-12 訓練の月別実施状況（理学療法）

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	60	56	59	60	61	61	63	60	59	62	61	64	726
延べ人員	107	101	98	106	84	96	108	90	100	137	131	100	1,258

表3-13 訓練終了の区分別人数（理学療法）

区分	人数
経過良好	14
転出	2
他機関へ移行	4
その他	1
計	21

### 3 作業療法

表3-14 診断区分別状況（作業療法）

（単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
ダウン症		2		1								3	1.9
その他症候群			1	2	2				1			6	3.7
てんかん												0	0.0
知的障害					4	4	1	2	1			12	7.4
自閉症及び自閉症周辺		1	1	1	12	50	8	15				88	54.3
多動症候群					2	8	2	7				19	11.7
言語発達遅滞						3		2				5	3.1
脳性麻痺			1	3		1		4	2			11	6.8
運動発達遅滞			2		1		1					4	2.5
筋ジストロフィー												0	0.0
急性脳症後遺症			1	3								4	2.5
整形外科疾患												0	0.0
その他					1	2	2	5				10	6.2
計	0	3	6	10	22	68	14	35	4	0	0	162	100.0

※その他は、発達性協調運動障害や脳腫瘍術後など

（注）就学前児童の年齢は、新規に訓練を開始した児童は訓練開始時の満年齢、前年度からの継続児童は年度当初の満年齢で区分した。

表3-15 訓練の月別実施状況（作業療法）

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	29	40	43	57	53	49	68	56	66	67	58	63	649
延べ人員	32	55	59	70	59	59	80	60	77	71	62	67	751

※日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（JMAP）を45件実施した。

表3-16 訓練終了の区分別人数（作業療法）

区分	人数
経過良好	71
転出	3
他機関へ移行	7
その他	1
計	82

## 4 言語聴覚療法

表3-17 聴力・言語等の区別検査実施状況（新規）

（単位：人）

年齢 区	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
東区				1	8	2	2					13	16.0
北区			2	5	11	8	3	3				32	39.5
西区			1	5	12	11	6	1				36	44.4
その他の区												0	0.0
計	0	0	3	11	31	21	11	4	0	0	0	81	100.0

（注） 就学前児童の年齢は、検査を実施した時の満年齢による。

表3-18 聴力検査の実施状況

（単位：件）

年齢 検査の種類	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
自覚的検査	乳幼児聴力検査											0	0.0
	C O R			3	1							4	12.9
	ピープショウ				2	8	7	2	6			25	80.6
	標準聴力検査											0	0.0
他覚的検査	OAE						2					2	6.5
	インピーダンス											0	0.0
計	0	0	3	3	8	9	2	6	0	0	0	31	100.0

（注） 就学前児童の年齢は、検査を実施した時の満年齢による。

表3-19 言語検査の実施状況

（単位：件）

年齢 検査の種類	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
吃音				1	1	3	1					6	8.6
構音				5	14	15	7	6				47	67.1
その他		1		2	9	3		2				17	24.3
計	0	1	0	8	24	21	8	8	0	0	0	70	100.0

（注） 1. 就学前児童の年齢は、検査を実施した時の満年齢による。

2. 「その他」は、S-S、PVT、ITPA等の言語検査である。



表3-20 診断区分別状況（言語聴覚療法）

（単位：人）

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年				
ダウン症候群		2		1		1					4	8.2
知的障害				1	1	1					3	6.1
自閉症及び自閉症周辺						8	1	5			14	28.6
言語発達遅滞					1	1					2	4.1
構音障害					4	7	3	5			19	38.8
吃音											0	0.0
脳性麻痺		1			1			2			4	8.2
運動発達遅滞											0	0.0
その他の整形外科疾患											0	0.0
その他					1	1		1			3	6.1
計	0	3	0	2	8	19	4	13	0	0	49	100.0

（注）就学前児童の年齢は、新規に訓練を開始した児童は訓練開始時の満年齢、前年度からの継続児童は年度当初の満年齢で区分した。

表3-21 訓練の月別実施状況（言語聴覚療法）

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	27	22	31	28	26	26	31	33	28	28	30	32	342
延べ人員	31	31	37	34	29	28	37	38	32	31	34	36	398

表3-22 訓練終了の区分別人数（言語聴覚療法）

区分	人数
経過良好	19
転出	1
他機関へ移行	2
その他	0
計	22

## 第4 通園事業

### 1 事業概要

#### (1) 定員 40人

※令和4年度は、4月1日時点で45人在籍。年度途中の入・退園があり、12月末日時点で46人の在籍であった。

#### (2) 対象児童

0歳から就学前の児童で、知的障害児、知的障害との重複障害児及び重症心身障害児を主たる対象とする。

#### (3) クラス編成

生活年齢、児童の動き、医療的配慮の要否を基本に編成する。

#### (4) 通園形態

親子通園及び単独通園の2形態とする。

##### ア 親子通園

- ・年間を通じて、毎週水曜日は全員親子通園とする。
- ・新規親子通園  
3歳以上の児童については入園後おおむね2ヶ月、2歳以下の児童についてはおおむね6ヶ月、通園日数は週に3日とし、親子で通園する。医療面で配慮が必要な児童については、長期親子通園のプログラムを組む。

##### イ 単独通園

- ・新規親子通園終了後、基本的に単独通園とする。
- ・通園日数は、3歳以上は全日（5日）、2歳児以下週3日とする。
- ・医療面で配慮が必要な児童については、体力や身体状況などを考慮する。

#### (5) 通園バスの運行

- ・児童の通園のため中型バス1台を運行し、所管区域である東・北・西の3区内をおおむね1時間30分以内で周れるように送迎コースを組んでいる。
- ・水曜日は全員親子通園日のため、上記の通園バスに加えてバスをもう1台借り上げて運行している。
- ・午前の療育グループ利用者を送るため、センターから地下鉄「庄内通」駅までの運行をしている。
- ・診察・訓練などの利用者についても、希望があれば上記の運行に乗車可としている。

### 2 療育目標

#### (1) 丈夫な身体づくり

毎日の生活のリズムを整え、いろいろな遊びや運動を通して、丈夫な身体づくりをする。

#### (2) 基本的な生活習慣づくり

毎日の規則正しい生活の中から、食事、排泄、着脱衣などの身の回りのことを自分でできるようにする。

#### (3) 集団生活への参加

遊びや課題を通して、友達や職員を意識し、豊かな心を養う。

#### (4) 親子関係づくり

親子通園や行事などのいろいろな経験を通して、しっかりとした親子関係をつくる。

### 3 日課

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:35	通園バス 出発				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">全員親子通園日</div>				
10:10	バス 到着 登園 クラス別活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 排泄、着替え</li> <li>・ 朝の会（手遊び歌など）、健康視診</li> </ul> 課題遊び				
12:00	給食		給食		給食
	歯みがき 自由遊び・午睡 クラス別活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着替え、排泄</li> <li>・ おやつ</li> <li>・ 帰りの会</li> </ul>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           クラス別活動           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着替え</li> <li>・ 帰りの会</li> </ul> </div>		歯みがき 自由遊び・午睡 クラス別活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着替え、排泄</li> <li>・ おやつ</li> <li>・ 帰りの会</li> </ul>
			13:30 降園 バス 出発		
			バス 到着		
15:00	降園 バス 出発				降園 バス 出発

(注) 各クラスの療育中に、適宜、診療相談スタッフも入る。

## 4 児童状況

以下、いずれの表も年齢は学齢区分による。

表4-1 クラス別状況 (令和4年4月1日時点 単位：人)

クラス名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
たんぼぼ組				1	5	3	9
ちゅうりっぷ組				4	2	3	9
ひまわり組			4	2	1	2	9
すずらん組			2	3	2	3	10
さくら組				8			8
計	0	0	6	18	10	11	45

表4-2 障害種別状況 (令和4年4月1日時点 単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
知的障害			3		1	2	6
自閉症				1			1
自閉症+知的障害				12	6	5	23
肢体不自由							0
知的障害+肢体不自由			1	2	2	1	6
重症心身障害			1		1	3	5
言語発達障害			1	3			4
保健							0
計	0	0	6	18	10	11	45

表4-3 障害程度の状況 (令和4年4月1日時点 単位：人)

障害程度	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
最重度 (IQ 20以下)			1	2	1	4	8
重度 (IQ21~35)			1	3	3	4	11
中度 (IQ36~50)			1	6	5	3	15
軽度 (IQ51~75)			2	5	1		8
その他 (愛護手帳なし)			1	2			3
計	0	0	6	18	10	11	45

障害の程度で、最重度 (IQ20以下) は愛護手帳1度、重度 (IQ21~35) は愛護手帳2度、中度 (IQ36~50) は愛護手帳3度、軽度 (IQ51~75) は愛護手帳4度に相当する。

表4-4 区別の状況 (令和4年4月1日時点 単位：人)

区	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
東区			1	5	2	2	10
北区			3	5	7	3	18
西区			2	8	1	4	15
その他の区						2	2
計	0	0	6	18	10	11	45

表4-5 通園日数の状況 (令和4年10月1日時点 単位：人)

通園日数	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
週に2日			2	1		1	4
週に3日			4	5	1	1	11
週に4日					1		1
週に5日				13	7	10	30
計	0	0	6	19	9	12	46

表4-6 卒・退園の状況 (単位：人)

区 分			児童数
卒 園	特別支援学校	知的障害	6
		肢体不自由	3
	小学校（特別支援学級）		3
退 園	保 育 所		10
	認定こども園		0
	幼 稚 園		3
	転 居 等		0
計			25

表4-7 卒・退園児の在園期間 (単位：人)

在 園 期 間	児童数	平均在園期間
1 年 未 満	1	1年10ヶ月
1年以上2年未満	12	
2年以上3年未満	4	
3年以上4年未満	7	
4年以上5年未満	1	
計	25	

## 5 見守り一時支援

15:00以降に希望者に対して実施しており、最大3名、最長で17:00まで支援を実施した。

表4-8 見守り一時支援の月別利用実績

月	開所日	利用者人数	延べ利用者数	日平均利用者数
4 月	4日	2人	5人	1.3人
5 月	9日	3人	14人	1.6人
6 月	16日	4人	36人	2.3人
7 月	13日	6人	26人	2.0人
8 月	12日	6人	29人	2.4人
9 月	11日	7人	29人	2.6人
10月	13日	8人	31人	2.4人
11月	16日	8人	43人	2.7人
12月	14日	9人	44人	3.1人
1 月	14日	6人	35人	2.5人
2 月	14日	9人	42人	3.0人
3 月	13日	9人	38人	2.9人
年間計	149日	77人	372人	2.5人

## 6 行事

表4-9 行事実施状況（令和4年度）

実施日（期間）	内 容
4月8日（金）	入 園 式
5月18日（水）	春の遠足（東山動植物園）
6月19日（日）	家 族 参 観
7月6日（水）	七 夕 会
7月7日（木）	歯科検診・歯磨き指導
7月30日（土）予定	夏 ま つ り（中止）
8月6日（土）～8月16日（火）	夏 休 み
10月15日（土）	運 動 会
11月9日（水）	秋 の 遠 足
11月16日（水）	保護者会企画（ミニSL）
12月3日（土）	家 族 参 観
12月21日（水）	クリスマス会
12月28日（水）～1月4日（水）	冬 休 み
1月11日（水）	餅 つ き
2月1日（水）	節 分 会
3月15日（水）	お 別 れ 遠 足
3月22日（水）	卒 園 式

（注）令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部の行事を中止または、縮小して実施した。上記のほかにも毎月実施している誕生会も時間を短縮して実施した。

## 7 アフターケアグループ

前年度に通園事業を退園し、保育所・認定こども園・幼稚園等に入所（園）した児童の保護者を対象として、グループを作って、保育所や幼稚園等、又は家庭での生活についてや就学に向けての悩み、不安及び疑問などに対して、保育士、ケースワーカー等が助言・援助を行っている。

10月からは保護者を主体とした自主グループ活動に移行し、職員は側面から支援を行っている。

表4-10 アフターケアグループ実施状況

グループ名	開催状況	参加者数	担当職員
そ う	月1回（第1月曜日） 13:00～14:00	5	保育士・通所支援係長

## 第5 地域ケア事業

地域ケア事業として、地域の関係機関等との連絡調整、巡回療育、訪問療育、センター主催の行事や講演会などの地域啓発・交流事業や地域内関係機関との交流や行事等参加、アフターケア、就学移行支援事業を実施している。

### 1 関係機関との連絡調整

地域内の各種関係機関と連絡調整を図りながら地域療育を推進している。関係機関の事業等への職員の派遣や会議等への出席状況は、以下のとおりである。

表5-1 関係機関への職員の派遣状況

派遣先	事業内容	派遣職種	派遣の頻度
東区保健センター	乳幼児発達相談	心理職	月に1回(半日)
北区保健センター		保健師	
西区保健センター		ケースワーカー	
天神山いこいの家	個別相談	心理職等	
遊モアプラス	保護者学習会	ケースワーカー等	

(注) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を中止しており、派遣しなかった月もある。

表5-2 障害児療育に関する連絡会議・研修等への出席状況

会議名など	開催日	出席職員(職種)
東区障害児療育関係機関講演会	令和4年9月7日(水)	所長・副所長・ケースワーカー
東区障害児療育関係機関連絡会議	令和4年12月8日(木)	副所長
北区 北部地域療育センター・保健センター・区役所・保育園交流懇談会	令和4年9月14日(水)	所長・副所長・ケースワーカー
西区障害児保育等四者懇談会	令和4年8月3日(水)	所長・副所長 診療相談係長・保育士
	令和5年2月1日(水)	所長・副所長・診療相談係長 ケースワーカー・心理職・保育士

## 2 巡回療育

下記に該当する児童を主たる対象として、障害児に関する各種の相談に応じるとともに、保育所・認定こども園・幼稚園における保育や家庭療育、学校での支援に関する必要な助言・援助を行うため、職員がこれらの機関へ巡回している。

- (1) 相談・診療及び訓練等の状況から判断して、保育所・認定こども園・幼稚園又は学校において助言・援助を必要とする児童
- (2) 相談・診療及び訓練等を継続中の児童であって、保育所・認定こども園・幼稚園又は学校から依頼や相談のあった児童

表5-3 巡回療育実施施設数

(単位：か所)

施設区分 \ 区	東区	北区	西区	その他の区	市外	計
保育所	3	5	3	1		12
認定こども園	1	2	3	2		8
幼稚園	6					6
小学校						0
特別支援学校						0
その他						0
計	10	7	6	3	0	26

表5-4 巡回療育実施状況 (単位：件)

実施職員(職種)	実施件数
所長(医師)	0
診療相談係長	2
保健師	3
ケースワーカー	18
心理職	17
保育士	23
児童指導員	0
理学療法士	1
作業療法士	1
言語聴覚士	1
看護師	1
計	67



表5-5 児童状況

(単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	計
知的障害								0
自閉症			1	6	6	1		14
自閉症+知的障害			1	6	3			10
肢体不自由								0
肢体不自由+知的障害								0
言語発達障害等			1					1
適性								0
重症心身障害				1				1
その他								0
計	0	0	3	13	9	1	0	26

(注) 年齢は、学齢区分による。

### 3 訪問療育

下記に該当する児童を対象として、家庭における児童の生活や家庭環境の改善、及び療育技術に関する助言や援助を行うために、職員が児童の家庭を訪問している。

- (1) 重症心身障害などの児童
- (2) 外来でのセンターへの通所が困難な児童
- (3) 療育効果の向上のため、家庭での援助が必要な児童

表5-6 職種別の訪問療育実施状況

(単位：件)

実施職員（職種）	実施件数
所長（医師）	0
保健師	0
看護師	0
ケースワーカー	0
心理職	0
児童指導員	0
保育士	0
理学療法士	0
作業療法士	0
言語聴覚士	0
計	0

(注) 新型コロナウイルス感染症拡大防止による影響が生じた

表5-7 児童状況

(単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	計
知的障害								0
自閉症								0
自閉症 + 知的障害								0
肢体不自由								0
肢体不自由+知的障害								0
言語発達障害等								0
適性								0
重症心身障害								0
保健								0
その他								0
計	0	0	0	0	0	0	0	0

(注) 年齢は、学齢区分による。

## 4 地域啓発・地域交流

障害児への理解を深め、障害児が家庭や地域でよりよく生活していける環境を整えることを目的として、地域啓発や地域交流に努めている。

表5-8 地域啓発・地域交流事業の実施状況

事業名・開催（予定）日時など	事業内容の概要
<p>1</p> <p>夏まつり</p> <p>令和4年7月30日（土） （中止）</p>	<p>毎年、北部地域療育センターを利用する児童、前年度の卒・退園児童、保護者、関係機関や近隣地域の方々、ボランティア、職員が親睦を深め、センターの事業を地域により根差したものにしていこうとすることを目的として開催している。園庭を開放し、模擬店やアトラクション、親子遊戯、踊りなどを行っている。</p> <p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。</p>
<p>2</p> <p>「子育て広場 in にし」</p> <p>令和4年11月5日（土） 西区役所講堂</p>	<p>毎年、名古屋市民間保育園連盟・西区保育園連合会・子育て広場inにし実行委員会の三者が共催し、西区内の保育園や関係団体が参加して子育て広場を開催している。</p> <p>センター保健師が参加し、来場した地域住民らに地域療育センターの事業を紹介するとともに、育児相談などを行った。</p>
<p>3</p> <p>西区「フレンドふくしフェスティバル」</p> <p>令和4年12月3日（土） イオンタウン名西</p>	<p>地域の理解を深めるため、西区障害者地域自立支援協議会と西区役所が共催し、令和4年度はパラスポーツやeスポーツを紹介した「フレンド・ふくし・フェスティバル」にセンターの相談支援専門員が参加した。</p>
<p>4</p> <p>ボランティアの受け入れ</p>	<p>地域療育センター事業への理解と関心を深めてもらうとともに、地域における障害児・者へのボランティア活動を振興するため、通年で次のようなボランティアの受け入れを行っている。</p> <p>①大学や短大の学生、近隣住民の方々のボランティアを募集し、通園事業や療育グループ事業の運営に職員と一緒に参画してもらっている。</p> <p>②学校の夏季休業期間中、西区の中学生サマーボランティア及び中部善意銀行の高校生ボランティアを受け入れている。</p> <p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、②は休止した。</p>
<p>5</p> <p>療育講演会</p> <p>令和4年11月30日（水）</p>	<p>療育センターが持つ資源の地域還元と療育関係者の資質の向上を図るため、地域で障害児療育に関わる保育所・認定こども園・幼稚園・学校・保健センター・児童デイサービス事業所等の職員を対象に、障害児療育に関する講演会を開催した。</p> <p>&lt;テーマ&gt;「これまで、いま、これから」～療育のおもいをつなぐ～</p> <p>&lt;講師&gt;北部地域療育センター 今枝所長・センター職員 社会福祉法人よつ葉の会 職員</p> <p>&lt;会場&gt;西文化小劇場</p> <p>&lt;参加者&gt;保育所・幼稚園・認定こども園・児童発達支援事業所・学校・保健センター等の職員80名</p>
<p>6</p> <p>通園体験 療育グループ体験</p>	<p>①東・北・西3区内の保育所・認定こども園・幼稚園・児童発達支援事業所の先生を対象に、センターでの通園体験事業を実施している。</p> <p>児童発達支援事業所 3回実施、9名参加 保育園・幼稚園・認定こども園 2回実施、5名参加 （新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1回中止）</p> <p>②東・北・西3区内の保育所・認定こども園・幼稚園の先生を対象に、センターの療育グループ体験事業を実施している。</p> <p>就園前グループ 4回実施、8名参加 並行グループ 4回実施、8名参加</p>

7 療育グループ 担任参観	療育グループ（並行）に参加している児童が通っている保育所・認定こども園・幼稚園を対象に担任参観を実施している。 令和4年度は、7回実施し、7園が参観。
8 交流保育	地域の保育所・認定こども園・幼稚園と相互理解を深めるため、センター通園部に通う子ども達との交流保育を行っている。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施していない。
9 サポートブック作成研修会 令和4年11月30日（水）	障害のある子どもの支援ツールである「サポートブック」を広めていくことで、学習を通して子育てを支援することを目的とした左記の研修会を行っている。令和4年度は、先輩保護者から体験談を聴く機会が設定できず、センター職員が説明を行った。14名が参加した。
10 エリア支援保育所 保育研修交流会	<p>エリア支援保育所主催の研修会に、講師派遣等を行った。</p> <p>東ユニットエリア支援保育所 保育研修交流会（東区） 「療育と保育をつなぐ交流会」 参加者：診療相談係長・ケースワーカー・保育士 日時：令和5年1月26日（木） 15:45～17:15 場所：東保育園 遊戯室</p> <p>上名古屋ユニットエリア支援保育所 保育研修交流会（西区） 「ことばがゆっくりな子どもへの支援」 講師：言語聴覚士 日時：令和5年1月31日（火） 15:30～17:00 場所：北部地域療育センター会議室</p> <p>北ユニットエリア支援保育所 保育研修交流会（北区） 「子どもの育ちを支える～療育センターの診療から」 講師：今枝所長 日時：令和5年2月22日（水） 16:00～17:00 場所：北部地域療育センター会議室</p>

## 5 通園部の卒・退園児のアフターケア

センターの通園部を卒園又は退園した児童を対象に、保育園・幼稚園や学校に出向き相談等を実施している。

表5-9 卒・退園児のアフターケア実施施設数 (単位：か所)

施設区分		東区	北区	西区	その他の区	市外	計
保育園		2	4	4	2		12
幼稚園				2			2
認定こども園							0
小学校（特別支援学級）			2	1			3
特別支援学校	知的障害				1		1
	肢体不自由			1			1
	聴覚障害						0
計		2	6	8	3	0	19

表5-10 卒・退園児のアフターケア実施状況 (単位：件)

実施職員（職種）	実施件数
診療相談係長	0
通所支援係長	1
理学療法士	2
作業療法士	1
言語聴覚士	1
ケースワーカー	1
心理職	1
児童指導員	9
保育士	22
保健師	0
相談支援専門員	0
計	38

## 6 北部地域療育センターのホームページの開設

名古屋市公式ウェブサイトのトップページ〔<http://www.city.nagoya.jp/>〕から「暮らしの情報 > 施設案内 > 病院・衛生・福祉施設 > 福祉関連 > 名古屋市北部地域療育センター」でホームページを開設しており、随時、情報提供を行っている。

令和2年度からはソーシャルメディア（YouTube）を活用した情報提供も実施している。

## 7 北部地域療育センターだよりの発行

第17号（令和5年2月発行）

療育講演会「これまで、いま、これから」～療育のおもいをつなぐ～

合同研修会報告「対応が難しい家族への支援」

名古屋市・よつ葉の会により引継ぎ共同療育を行っています。

## 8 就学移行支援事業

小学校入学に向けて、教育センター等と連携して、保護者への情報提供を行っている。

### (1) 特別支援学級・特別支援学校就学説明会

当センターを利用して就学を控えた児童の保護者のうち、児童の就学先として特別支援学校又は特別支援学級を予定し、もしくは検討している方々を対象に、例年、教育センターから講師を招いて、特別支援学校(級)への就学手続きの流れや特別支援教育の現状等について説明会を開催している。

〈開催日時〉	令和4年5月24日（火） 午前10時30分～午前12時00分
〈会場〉	名古屋市教育委員会 教育センター 教育相談部の先生
〈講師〉	名古屋市西文化小劇場 ホール
〈内容〉	就学に向けての学校への相談や手続きの流れ、名古屋市内の養護学校や特別支援学級の現状、就学までに子どもに身につけさせたいこと等

### (2) 特別支援学校見学会

当センターを利用して就学を控えた児童の保護者のうち、児童の就学先として特別支援学校を予定もしくは検討している方々を対象に、例年、学校見学会を実施している。

表5-11 特別支援学校見学会実施状況

見 学 先	見 学 会 開 催 日	参加者数
名古屋市立西養護学校	令和4年6月3日（金）	5名
名古屋市立守山養護学校	令和4年6月9日（木） 令和4年10月13日（木）	12名 3名
愛知県立名古屋特別支援学校	令和4年6月2日（木）	8名

### (3) 就学前保護者懇談会

当センターを利用して就学を控えた児童の保護者を対象に、先輩保護者を交えての懇談会や、講演会を実施している。

表5-12 就学前保護者懇談会実施状況

開 催 日 時	内 容	参加者数
令和4年11月1日（火） 10：30～12：00	講演会 「就学に向けて」 講師：北部地域療育センター所長 今枝 正行	19名

## 第6 相談支援事業

発達や成長面で不安があり、児童発達支援や放課後サービスなどの福祉サービスの利用を希望する主に未就学又は小学校低学年の児童を対象として、相談支援専門員が基本相談支援、サービス等利用計画及び障害児支援利用計画の作成、モニタリング、計画の継続及び変更などを行っている。

表6-1 区別・年齢別契約人数（令和4年度末）

（単位：人）

区	就学前児童						小学生		中学生	高校生	その他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
東区			6	6	3	4	7	5	7			38
北区	1		8	7	13	12	28	24	8			101
西区		2	8	11	4	6	20	16	7			74
その他の区				1			1	1				3
計	1	2	22	25	20	22	56	46	22	0	0	216

- （注） 1. 年齢は、年度初日の満年齢により区分した。  
2. 小学校は3年生以下を「低学年」に、4年生以上を「高学年」に区分している。

表6-2 月別、新規契約件数及び終了等件数

（単位：件）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規契約	1	3	0	1	1	1	0	3	6	7	10	2	35
契約の終了 又は解除	0	2	0	0	0	1	2	1	0	3	0	16	25
契約件数 増減の累計	1	2	2	3	4	4	2	4	10	14	24	10	10

表6-3 障害児支援利用契約案の月別作成件数（延べ件数）

（単位：件）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計 画 案	12	14	18	8	21	8	15	6	8	18	49	48	225
本 計 画	28	67	37	14	13	18	11	13	6	8	6	7	228
モニタリング	0	1	0	1	5	0	3	3	2	0	0	0	15

## 北部地域療育センター利用者の10年間の推移（平成25年度～令和4年度）

### 区別の新規発達相談件数

（単位：人）

年度 区	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
東 区	41	39	40	43	54	58	60	55	78	94
北 区	160	174	134	158	162	151	162	146	193	191
西 区	116	123	143	115	118	134	116	157	194	198
その他の区	0	1	1	22	14	1	0	1	1	0
市 外	1	2	3	1	1	1	0	0	1	1
計	318	339	321	339	349	345	338	359	467	484

### 児童の年齢別新規発達相談件数

（単位：人）

年度 年齢	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
0 歳	12	15	12	8	13	20	10	6	9	6
1 歳	28	30	30	29	20	33	31	30	28	37
2 歳	98	103	109	106	108	86	88	105	124	149
3 歳	81	99	85	81	86	101	92	105	155	127
4 歳	45	42	39	53	44	49	51	50	67	73
5 歳	35	28	29	36	49	37	47	47	58	57
6 歳	14	16	8	15	25	18	16	16	26	34
小学校低学年	4	6	8	10	3	0	3	0	0	1
小学校高学年	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0
中 学 生	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	318	339	321	339	349	345	338	359	467	484

### 発達検査の年度別延べ実施件数

（単位：件）

年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
検査実施件数	709	747	718	735	693	641	662	638	720	775

### 療育グループ参加児童数（年度末時点）

（単位：人）

年度 区分	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
就園前グループ	83	87	80	80	59	58	48	52	72	77
並行グループ	43	44	41	33	35	25	21	30	31	33
計	126	131	121	113	94	83	69	82	103	110

### 小児科診察の年度別実施件数

（単位：初診は人、再診は件）

年度 区分	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
初 診	318	339	321	339	349	345	338	359	467	484
再 診	1,784	1,923	2,010	2,091	2,217	2,159	2,159	2,057	2,374	2,514



**整形外科診察の年度別実施件数**

(単位：初診は人、再診は件)

区分 \ 年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
初 診	33	44	49	30	30	53	34	29	33	31
再 診	283	256	316	321	321	322	340	396	393	355

**精神科診察の年度別実施件数**

(単位：初診は人、再診は件)

区分 \ 年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
初 診	10	7	4	6	5	7	3	7	10	8
再 診	134	160	128	107	80	86	63	76	70	55

**耳鼻いんこう科診察の年度別実施件数**

(単位：初診は人、再診は件)

区分 \ 年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
初 診	25	23	19	31	20	27	27	20	24	25
再 診	94	77	71	114	86	65	66	45	65	51

**理学療法・作業療法・言語聴覚療法の年度別延べ実施件数**

(単位：件)

区分 \ 年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
理学療法	550	522	870	1,181	1,229	1,347	1,344	1,187	1,445	1,258
作業療法	169	109	93	133	92	107	127	576	840	751
言語聴覚療法	389	245	317	698	543	499	432	379	482	398

**巡回療育の年度別実施件数**

(単位：件)

区分 \ 年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
件 数	38	19	46	46	36	37	29	3	7	26

**訪問療育の年度別実施件数**

(単位：件)

区分 \ 年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
件 数	0	0	0	0	4	15	8	0	2	0

**アフターケアグループ(療育グループ・通園事業)参加者数(年度末時点)**

(単位：人)

区分 \ 年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
人 数	51	54	43	45	42	44	21	44	32	24



- 地下鉄「庄内通駅」(◎ 番出口) から徒歩約12分
- 市バス「名塚」又は「大金町」から徒歩約8分

**名古屋市北部地域療育センター**  
**事業概要**  
 —令和4年度版—  
 (2022年度版)  
 (令和5年8月発行)